

4階中央病棟 ～楽しく、のびのび、笑顔で～

毛利真由美¹⁾

要 旨：2002年介護療養型医療施設として開設され、新本館棟建設に伴い2016年移転し、介護療養型医療施設廃止の方針に向け、2017年より医療療養病棟に転換された。急性期治療後も医療提供の必要性が高く、在宅や施設での生活が難しく病院での療養が必要な患者用の病棟で、本館棟からの転棟が多い。医療区分及び日常生活動作（ADL）区分による包括評価をする。当病棟は医療区分2、3の患者が80%以上の入院基本料Ⅰの算定を行い看護師及び看護補助者を20：1以上で人員配置している。現在、酸素吸入、人工呼吸器、頻回な吸引、気管切開、人工透析、褥瘡処置などの患者、指定難病で在宅生活が困難な患者や緩和ケア、ターミナルケア等療養上重要度の高い患者の療養、退院支援まで幅広く、安心と真心の看護・介護を提供している。今後、高齢化に伴う課題に取り組みながら、病院の中での役割を考え、各スタッフが楽しくのびのびと個性を生かし、きめ細やかな看護・介護を提供していきたい。

キーワード：医療療養病棟；高齢化；在宅療養困難例

（雲南市立病院医学雑誌 2020；17(1)：印刷中

病棟紹介

H14年（2002年）4月1日、介護療養型医療施設48床1階南病棟（愛称「ふれあい病棟」）として開設されました。新本館棟建設に伴い、H28年（2016年）4月17日に現在の場所へ移転しました。移転後、4階の病室から大東の町並みや遠くの山々の眺めが最高でしたが、新本館棟建設により現在では本館の壁しか見ることが出来ないのが残念です。国の方針の介護療養型医療施設廃止に向け、H29年（2017年）7月1日より医療療養病棟に転換されました。

医療療養病棟とは？

急性期の治療を終えても引き続き医療提供の必要性が高く、在宅や施設での生活が難しく病院での療養が必要な方を対象に利用いただく病棟です。医療の必要に応じた医療区分及び日常生活動作（ADL）自立度の視点から考えられたADL区分による包括評価をすることになっています。

当病棟は医療区分2、3の方が80%以上の入院基本料Ⅰの算定を行い看護師及び看護補助者の人員配置は20：1以上です。現在、酸素吸入、人工呼吸器、頻回な吸引、気管切開、人工透析、褥瘡処置などを行っている方、指定難病で在宅での生活が困難な方や緩和ケア、ターミナルケア（看取り）等療養上重要度の高い患者さんのお世話から、退院支援（施設入所）まで幅広く、安心と真心の看護・介護を提供しています。

患者さんは本館棟からの転棟がほとんどで主治医も継続のため安心して療養ができ、時にレスパイト入院もあります。

職員：

看護師：12人
介護士：10人
病棟薬剤師：1人
病棟管理栄養士：1人

病床数：

48床（個室4部屋）

1) 雲南市立病院看護部看護科

著者連絡先：毛利真由美 雲南市立病院看護部看護科 [〒699-1221 雲南市大東町飯田 96-1]

E-Mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp

電話：0854-47-7500/ FAX：0854-47-7501

（受付日：2020年3月31日、受理日：2020年3月31日）



図 2 : 満開の胡蝶蘭



図 3 : 入口で出迎える「うんなシー」



図 1 : 病棟の季節ごとの壁飾り



勤務体制 :

三交代制 (準夜勤務看護師 1 人、介護士 2 人、深夜勤務看護師 2 人)

4 階中央病棟の特徴

環境 :

患者さんに、季節感を味わっていただくために、季節ごとに、春の「雛祭り (お雛様)、桜、こいのぼり」、夏の「蛍、七夕、ひまわり」、秋の「お月見、紅葉」、冬の「クリスマス、お正月、雪だるま」の壁飾りをして (図 1)、今の時期は胡蝶蘭が満開で病棟は明るくオープンで解放的です (図 2)。入口で「うんなシー」のお出迎えがあります (図 3)。

清潔 :

週 2 回のミスト浴 (洗髪機付きシャワードーム) で清潔が保たれ、褥瘡完治も早いです。呼吸器装着者・ターミナル期の方の入浴 (シャワー浴) も行っていま



図 4 : ミスト浴

す。ミスト浴は当病棟にしか設置されておらず、浴室空間も広く、明るく、音楽をかけながら楽しく入浴介助をしています (図 4)。

食事 :

経口 : 胃瘻 (腸瘻) 比率 50% : 50%。経口摂取ができる方はディールームでスタッフとお話しをしたり、テレビを見ながら食事をしていただいております、生活リズムができ、環境が良いのか食事摂取量がアップしま



図5：ディールームでの食事

す。ディールームでの食事は全体を見ることができ介助し易くゆったりとした気分で食事介助ができます(図5)。

15時頃には水分補給(お茶ゼリー、とろみ茶)やおやつ(ゼリー、プリン等)の介助も行っています。

胃瘻・腸瘻の方はお部屋で注入ですが、時々リクライニング椅子やベッドでディールームに出て注入をしています。

※エピソード

過去にこんな事がありました。

・看取り目的で4階中央病棟へ本館から転棟され経口摂取量も減少し点滴開始となりました。ある日アイスクリーム(地元乳業製、図6)を一口食べていただいたところ、段々とアイスクリームを食べられる量が増え、2カ月後にはプリン食が食べれるまでになり、あれから1年半、パーキンソン病の内服薬も中止のままですが、お元気で毎食完食していらっしゃいます。

この事例は「アイスクリーム効果」としてどこかで症例発表したいですね(笑)。



図6：地元アイスクリーム

接遇：

面会のご家族へも「こんにちは」「ありがとうございます」と、あたりまえの事ですが、大きな声で笑顔であいさつをし、ご家族からも「気持ち良いです」と言われています。

長期入院の方が多いので、ご家族についても皆が把握し、コミュニケーションが取り易いです。

寝たきりでお話しできない患者さんにも視線を合わせ、どんなケア・処置をする時でも必ず名前を呼ん



図7：敬老の日、雛祭り

で「〇〇させていただきます」と声掛けをしています。

患者さんに寄り添い、自分がしてあげたい事がゆっくり時間をかけて関わられる病棟です。

スタッフ間のコミュニケーション：

コミュニケーションが良くチームワークが良いです。看護師・介護士間でいろいろな事が聞き易く協力しあえています。看護師・介護士の役割分担がきちんとできています。

行事：

敬老会(9月)

レクリエーション(適宜)

などで季節感を味わっていただいています(図7)。

患者さんの変化：

- ・褥瘡完治が早いです。
- ・呼吸状態が良くなり、酸素投与が必要無くなる方が多いです。
- ・患者さんに関わる時間が多く、結果、表情が良くなり、お話しもでき、食事摂取量が良くなる方がいます。

終わりに

今後、社会の高齢化に伴う課題に取り組みながら、雲南病院の中での医療療養病棟の役割を考え、スタッフ一人一人が楽しくのびのびとそれぞれの個性を生かし、きめ細やかな看護・介護を提供していきます。

4月からは介護士の委員会を作り、より一層介護面の充実をはかり、患者さんやご家族に満足してもらえるよう努めたいと思います。



Central fourth-floor ward: enjoyable, freely and with smile

Mayumi Mori¹⁾

Abstract : This ward was established in 2002 as an in-hospital sanatorium long-term care-type ward. We moved to the present place in 2016 and were re-certified as a long-term care (medical treatment type) ward in 2017. We treat patients who are too dependent on medical support and for whom in-home care or nursing home care after in-hospital acute medical care would be difficult, resulting in long-term hospitalization. The patients come from other acute care wards of our hospital. They are then comprehensively evaluated based on their medical category and activities of daily living (ADL) category. Our ward is certified as class one category of long-term care ward hospitalization basic fee, in which patient rate of high grade of medical category, level two or three, should be over 80%, and it is operated with a rate of nursing and assistant deployment to patient is over 20 to 1. Today, there are patients in our ward requiring oxygen therapy, ventilator therapy, frequent tracheal aspiration, tracheostomy management, haemodialysis, decubitus management, palliative care, and terminal care and complex and difficult medical supports in home because of designated intractable disease. We provide safe and heart-warming nursing care for them, including support at discharge. We also provide nursing care freely and with a smile, with the problems of ageing and our role in our hospital in mind.

Keywords: long term care (medical treatment type) ward; the problems of aging; difficult in-home care cases

¹⁾ Nursing department, Unnan City Hospital

Correspondence:

Mayumi Mori, Nursing department, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

E-Mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501